

別記様式8 〔第5項(6)〕

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさちの家

作成日 平成 28年 3月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議では、事業所、ご家族様、地域住民、地域包括支援センター職員等の良い交流の場、情報交換の場となっており、そこで得た情報を更なるサービス向上に活かしたい。	さちの家をより多くの方に知って頂き、地域に存在している事の理解を得られるようにしていく。	運営推進会議委員の方々に、芋煮会や餅つき等の行事に参加して頂くことで、さちの家がより開かれた場所であることをお伝えしていきけるようにする。また、職員が近隣地区の集会で認知症についての講演を行ったり、認知症家族交流サロンで講師を行うことで、地域の方々に認知症についての理解を深めて頂く機会を設ける。	6ヶ月～1年
2	13	災害時に、職員の入れ替わりに関わらず、対応出来る体制を整えておかなければならない。	年2回の避難訓練で、全職員が災害時に適切な対応が出来るのはもちろん、地域住民の方にも協力体制がとれるようにする。	避難訓練実施の際は、新人職員がメインとなり行い、既存の職員が指導することで、職員誰もが防災の意識を高めていけるようにする。また、毎週いらっしゃる地域のボランティアの方にも避難訓練に参加して頂き、入居者様毎のADL状況や避難方法をお伝えし、いざという時に、適切な対応をとれるようにしておく。	6ヶ月～1年
3	33	終末期に対する意識や知識をより高め、チームでの支援や体制を整えていく必要がある。	職員全員の知識を深め、チームとしての終末期ケアの充実を図る。	他事業所の看取り経験のある看護師による研修を行い、知識を深めると共に、他部署との連携をスムーズに図るよう研修を通じて、相互での情報共有を行う。また、内外部による終末期ケアの研修の開催及び参加を通じて、より一層終末期ケアに対する意識向上に努める。	6ヶ月～1年
4	34	ADLの低下、認知症の進行により、入居者一人一人のリスクが高まってきた。	各入居者のリスクに関する情報を職員間で共有し、回避に努め、安心して生活して頂く。	入居者一人一人の各生活場面で起こり得るリスクを把握するため、リスク予測表を作成し、職員間で情報を共有し、回避に努める。変化があれば、その都度見直しを行う。緊急マニュアルの整備や普通救命講習への参加で万が一に備える。	6ヶ月～1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。